

島根地方最低賃金審議会
島根県製鋼・製鋼圧延業、鉄素形材製造業
最低賃金専門部会 第2回会議 議事録
公 開

- 1 日 時 令和5年9月25日（月）午後4時55分～午後8時5分
- 2 場 所 島根労働局 専用大会議室
- 3 出 席 者 公益代表委員 出席3名 定数3名
労働者代表委員 出席3名 定数3名
使用者代表委員 出席3名 定数3名
- 4 主要議題 ○最低賃金に関する基礎調査結果について
○設定様式について
○金額審議

【部会長】 ただいまから令和5年度島根県製鋼・製鋼圧延業、鉄素形材製造業最低賃金専門部会第2回会議を開会します。部会長となりました藤本でございます。よろしくお願いたします。

それでは、まず、事務局は本日の配付資料の確認をしてください。

【指導官】 はい。本日、各委員の皆様にお配りしております資料につきまして御確認をお願いします。

本日は、会議次第が1枚と会議資料として赤いインデックスナンバー1からナンバー3を綴じたものをお配りしています。

資料ナンバー1が1枚もので、設定様式。資料ナンバー2が1枚もので、令和5年度特定最低賃金改定状況鉄鋼。資料ナンバー3が1枚もので、島根県最低賃金及び島根県の特定最低賃金の年次別推移です。

以上です。

（ 資料確認 ）

【部会長】 事務局から委員の出席状況と公開状況について、報告してください。

【指導官】 はい、報告します。本日は、全員の御出席をいただいておりますので、最低賃金審議会令第5条第2項により、本日の会議は定足数を満たしており、有効に成立しますことを御報告いたします。

また、本日の会議の公開につきましては、本庁舎の掲示板及び島根労働局ホームページに9月15日から9月21日まで掲示いたしましたが、傍聴の申込みがありませんでしたので併せて御報告します。

【部会長】 傍聴人はいらっしゃいませんが、本日の会議及び議事録は公開としております。9月21日開催の専門部会合同会議において決定しておりますとおり、個人情報保護に支障を及ぼすおそれがある場合、個人若しくは団体の権利利益が不当に侵害されるおそれがある場合又は率直な意見交換若しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれがある場合には、専門部会運営規程第5条第1項但し書きにより、それ以降の会議は非公開の扱いとなりますが、会議を非公開とする部分は議事録も専門部会運営規程第6条第2項により非公開、同条第3項により議事要旨を公開することとします。

【部会長】 それでは、議事次第に入ります。

事務局は、会議次第2の最低賃金に関する基礎調査結果、各業種部分について、前回の合同会議では共通部分の説明でしたので、各論部分を説明して下さい。

【指導官】 私から、今年度行いました製鋼・製鋼圧延業、鉄素形材製造業以下、鉄鋼と言いますが、鉄鋼に係る基礎調査結果についての主な点をご説明いたします。

調査結果の詳細につきましては、9月21日に開催しました合同部会において資料をお配りしました部会別資料をご覧ください。この中の青のインデックスNo.2の最低賃金に関する基礎調査結果報告書によりご説明します。

まず、この度の基礎調査の結果報告書は、本省の指示により経済センサスの業種のとおり集計し作成しております。

最初に資料の3ページ第2表をご覧ください。鉄鋼の事業所数及び労働者数をみてみますと、3ページ第2表の下に参考として記載しておりますとおり、13事業所で2,643人となっております。

このうち今回調査を行った事業場数及び労働者数は、下の第3表のとおり、事業所規模が99人以下のところで、8事業所に調査票を発送し、8事業所から回答がありました。この8事業所の集計を行い、その調査結果を取りまとめしております。

資料の11ページをご覧くださいますと、図2の鉄鋼における賃金分布、時間額換算をグラフにしたものがございます。時間額1,000円以上の割合は、97.6%で、1,000円未満は2.4%となります。

資料の7ページに戻ってご覧くださいますと、図1として、全産業の所定内賃金階級別労働者数割合をつけておりますが、時間換算1,000円以上の割合は、67.0%となっており、1,000円未満は、33%となっておりますので、全産業と比べれば、鉄鋼は高い賃金分布となっております。

次に資料の13ページをご覧くださいますと、第11表 平均賃金額及び労働時間数について、調査産業計と鉄鋼の状況を表にしていますが、月1人当たり労働時間数は、前年比でプラス1.8%となっており、時間当たり平均賃金額でも対前年比でプラス3.2%という結果となっております。

このような状況、傾向が資料から把握されますが、そのほか、青いインデックスNo.3の終わり2枚に、影響率とサンプル数を付けています。現在、鉄鋼の特定最低賃金額は987円でございますが、今回の調査において、その特定最低賃金を下回る、未満者のサンプル件数としては、3人となっております。

また、本日の会議資料として赤のインデックスNo.2に令和4年度における全国の鉄鋼の特定最賃改定状況をつけておりますので審議のご参考としていただければと思います。

以上で私からの説明を終わります。

【部会長】 前回の共通部分の説明も含めて、何か質問はありますか。

(「ありません」)

【部会長】 それでは事務局は、会議次第3の設定様式について説明してください。

【室 長】 本日机上にお配りしました赤のインデックスの1番を御覧ください。

設定様式は、最低賃金の適用範囲等を設定するものです。

昨年と同じ設定の様式をお示しいたしておりますので、御審議のほどよろしくをお願いします。

【部会長】 設定様式について御意見ををお願いします。事務局から提出のあった設定様式で確認してよろしいでしょうか。

(「はい」)

【部会長】 それでは資料ナンバー1の設定様式のとおり確認いたします。

【部会長】 つづいて、会議次第4の金額審議に入ります。申し出されました労働委員から基本的な意見はいかがでしょうか。

【景山委員】 大した資料じゃないですけど、準備してきましたので読ませていただいてよろしいでしょうか。

【部会長】 よろしくをお願いします。

(疎明資料配布)

【景山委員】 このお配りしたものに従って私の方から少し説明をさせていただいた後に、各委員の方からも職場の実態等々を含めてお伝えをさせていただきたいというふうに思いますし、使用者側それぞれの立場で御出席ですので、ぜひ業界の詳しい状況についてお聞かせをいただいて認識を深めたいというふうに思っております。

また、今回は基本的に正直ベースで審議をさせていただきたいということ

で、最終の金額までつくり上げたつもりでございますので、その辺についてもお酌み取りをいただければというふうに思っております。

まず、前段の部分につきましては、県最賃の状況等々について、それを踏まえた我々の審議としたいというふうな思いを書かせていただいております。しかしながら、やはりいつも問題となっております、新規学卒者がしっかりと島根県に定着をしてきて仕事をすると、そして、労働者人口をきちっと守りながら持続可能な島根県をつくっていくということについては、先行きの不透明感というのはいまだ拭えないというふうな課題を持っているというふうに思っております。いずれにしても、この審議会を通じて真摯に議論を進めることによって、我々は使用者側の言われることの認識もしっかりとしながら受け止めをし、真摯な議論に努めていきたいというふうに思っておりますので、公益先生方におかれましても導きのほうをよろしくお願ひしたいと思っております。

1ポツは、全国から注目される島根の鉄鋼というふうに書かせていただきました。多くの方が見ていらっしゃったんですが、70%を超えるような視聴率があった「VIVANT」というドラマが先頃終わりました。若松委員も見られたという感じだと思いますけども、この中では、何が言いたいかっていうと、鉄にまつわる地域をこちらでロケをされて、それが大きく取り沙汰されたということで、「VIVANT」ロスが始まってからも、私、奥出雲町出身ですが、しきりに人が訪れて、鉄の博物館などを見ていらっしゃるということで、これまで鉤って何だろうとか、たたら製鉄って何だろうと、知らなかった方々にいろんな発信ができていくということで、ありがたく思っております。

加えて、島根大学で大きなニュースになりましたけれども、材料エネルギー学部というのが、我々の悲願でもあったわけですが、新設をされておまして、1期生がもう入学をされているということです。私が調べたデータによりますと、1回生は今のところ、入学時点で86名が入られたというふうに認識をしておるところでございます。久方ぶりに新学部ということでもありますし、島根大学或いは県立大学の中では専門的知識を養う学問というのは少のうございますけれども、今回、特に鉄にまつわる、こういった学問が

できたということは非常に喜ばしく思っているところです。

また、加えて、これを新設するに当たって、様々なセクションからの意見もあったところですが、この目的の一つに、卒業される方の5割、県内の企業に就職させるということが明確にうたっています。ですので、今期86名入学された方、また来年も続いていきますけれども、その半分が鋳物や製鉄といった部分に就職をしてくれること、このことを願いたいというふうにも思いますし、より先駆的な鉄鋼業の前進に向けた、そういう力を発揮していただけたらいいなというふうに切に願っているところでございます。

今言った大きな2つのことが今年にはございましたし、これまでも質のよい鉄を造ってきた島根県ということで世界中から注目をされていますし、今こそ、今、鉄に向けて、我々の賃金といった魅力も加えていくという時ではないかというふうに我々は思っているところでございます。

1枚めくっていただきますと、2ポツとして鉄鋼業の現状認識ということで書かせていただいております。いろいろ思うところはそれぞれにあるわけですが、材料高、エネルギー高によって、消費者或いは労働者もですが、経営側にとってもいろいろと切迫をする状況になっているということはよくよく分かっているつもりでございます。また、新制度としてインボイスが導入をされるということで支援も必要でありましたし、設備投資などについても出てきているということで、商売のやりにくさということも含めて、非常に複雑多岐になっているという認識がございます。

また、技術革新の分野においても、それぞれの事業において必要なもの、あるいは投資ということでされているということは聞いてもおりますし、また必要なことだというふうにも思っておりますが、中段に書かせていただいているように、この鉄鋼業というのは、特に科学に置き換えられない職人技、ノウハウがあるということも事実であります。そして、それは第六感とかいうものではなくて、確かな経験に基づいた技能であるというふうに私どもは考えておりますし、非常に環境は苛酷な中での作業ということにはなりますけれども、そこで働いている人のそういったノウハウを持つ働く者のプライド、或いは誇りってということがこの鉄鋼業を支えているというふうに思っております。

そして、片側では、やはりそれを評価されることによって人は成長をし、また仕事に頑張れるというふうなモチベーションの部分も考えれば、報酬ということは一つの大きなものであるというふうに思っております。

加えて、県内6業種の議論がこれから始まっていきますけども、金額そのものを見ても鉄鋼業はプライスリーダーというふうになっておりますし、一番先に決定をしていくという順番もこのところの審議では継続をしているわけでございます。本当に島根県の産業としては一番手であるということを目を負しながら、鉄鋼業界の人手不足問題の改善にもつながり得る、求職者に対してのきちっとした賃金の上昇というものを見ていただくという議論がしたいというふうに思っております。

3ポツでございます。先ほど事務局の方からも詳しく御説明があったところでありまして、もう書かれているとおり、ほぼ、1,000円にしても、1,233円というふうな数字も出しておりますけども、現在の労使関係の中では、鉄鋼業の最低賃金で働いてる近辺の人っていうのはほとんどいないと、存在をしていないということがお分かりだろうというふうに思っております。このことは1,000円を超える部分が大方の部分だということだといえ、現時点で使用者側の経営状況が苦しいながらも、支払い能力については十分な担保があるのではないかとというふうに労働者としては考えております。

そして、優位性ということについてはあまり強く申し上げるものではないですけれども、一定の優位性がなければやはりプライスリーダーのポジションというのは脅かされるわけですし、いろんな業態、或いは同業他社との競争の面においても、優位性を確保した上で最低賃金としてきちんと存在をしていくということが大切だろうというふうに思っているところでございます。

それから、労働者の環境でありますけれども、やっぱり低廉な賃金で働く人々の生活っていうのはもう非常に厳しいということになっておりますし、今日は退職をされた方々と、数名とお話しすることがございましたけれども、やっぱり生活困窮者にも値をする年金受給者というような状況に陥ってるようございまして、買物がしづらい環境下であるということが言えますし、そのことは我々労働者にとっても同じ思いだというふうに思っております。

益々この先の状況というのは不透明感は漂っておりますけれども、一定程度、生計費に見合った賃金の上昇ということが必要だというふうに主張をさせていただきます。

具体的な要求については、正直ベースだというふうに申し上げました。幾らの金額を言っても、そこに値する人っていうのは存在がし得ないということは片側ではありますけれども、やはり他の産業に与える影響、或いはバランスというふうなことも労働者としては勘案をしていきたいということで、総合的に55円の引上げを要求をさせていただきたいというふうに思いますし、最終的には、折り合いがつけば、我々自身もここにとどまる気持ちもございませんので、しっかりと審議をしていく中で結審を迎えたいというふうに思っております。

また、55円の具体的な根拠につきましては、県最賃の引上げ率とほぼ同等の数字として55円の引上げをすることをベースとしましたので、その点御理解も賜ればというふうに思っております。

もうほぼ議論としては県の最低賃金と同じ主張の繰り返しになるかもしれませんが、県内に必要不可欠な鉄鋼業を今後も存続していくため、人々の生計費をしっかりと守り、そして、そのことによって働いてくれる人たちを確保していきたいというのが我々の要求の肝となっておりますことを御理解をいただければというふうに思います。

私からは以上です。

続いて、よろしくお願いいたします。

【松本委員】 昨年に引き続き、委員をさせていただきますプロテリアル労働組合安来支部の松本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

先ほど景山さんのほうからありましたとおり「VIVANT」がもう1クール早ければよかったなという、個人的にはちょっと思っております。ちょうど今年9月から来年の高校卒業生の就職という部分が始まっております。当社も当然募集をしたわけでありまして、これぐらい欲しいなっていう人数の半分にもいかなかったということで、今、2次の募集もかけているという状況になります。

日本のこれまでの経済、今後の経済を支える基幹産業という中では色々な産業がある中ではありますけれど、やはりこの島根という部分では鉄鋼の部分ってというのは非常に大きいのかなと思っております。将来のものづくりを支える方々にやはり少しでも魅力を感じていただけるような業種にしていけないといけないと思っています。そのためには当然、環境を改善したりとかそういった部分は必要かというふうには思っております、我々の会社の中でもそういった論議はしておりますけれど、魅力の一つということではやっぱり賃金も忘れてはならないものかなというふうに思っております。

島根大学で学ばれた多くの方が島根県に残っていただくというのも非常に重要な部分でありますし、我々も卒業されるときには何とかうちに来てほしいなという部分を非常に思っている部分であります。

繰り返しになりますけれど、島根県の中でのこの鉄鋼という部分は非常にウエートが大きいのかなというふうにも思っておりますので、魅力ある賃金の一つという部分でしっかり論議をさせていただければなというふうに思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。以上です。

【高田委員】 私も引き続き今年も委員をさせていただきます。出身はダイハツメタル労働組合の高田と申します。

私どもも鋳物を扱う会社で先ほどからお二方からも出ておりましたとおり、環境的なところでは苛酷な環境で労働者の方働いているんですけど、特に今年なんかはもうあの異常な暑さの中で、工場内はむしろ外よりも暑いような中で、熱中症に気をつけながら働くといった中で、夏の時期というのは毎年訪れるんですけども、年々、やはり過去からずっと働いておられる我慢強い、忍耐力の高い人たちですら中々それにもう耐え切れないという中で、今までどちらかといったら入って数年の若手の方がなかなか続かなくてというので他業種の方へ離れていくという方が多かったですけども、近年はやはり中堅の20年選手、30年選手という方々が体力的にもう厳しいというところで去られるという実態も実際にあります。その時に退職される方々に話を聞くと、確かに過去からずっと県内では高い水準での賃金を頂いてはいたんですけども、年々やはり県の最低賃金というのも上がってきてますので、そ

の他の業種との差っていうのはどんどん縮まってきていると。やはりものづくり製造業というのはどちらかといったら時間外ですとか、休日出勤といったそういった手当の部分でほかと差を生むといったところで縛られる時間の長さっていうところ、ここもやはり皆さん気にかけっていると。その苛酷さが毎年増していく中で、縛られる時間も長いというところでやはりそこで一つ何かきっかけがあると我慢の限界を迎えてしまうというところで、どんどんやはり人離れというのが加速していったという実感があります。

ただ一方で、やはりその半面、自動化ですとかというそういったところが進んでいるかというところに着目しても、中々そこもやはり高額な設備投資でお金がかかる部分ですので中々進まないというところで、やはりどうしてもマンパワー、人の力に頼りがちになっていく一方でそれに追従しての賃金が、じゃあ、ついてきているかといったら中々そこっていうのも人への投資っていう部分では追いついてないのかなというふうに苦しい中ではあるとは思いますが、そこっていうのが中々付随してこないという実態があると思います。

急にこれが良くなるっていうことは中々ないと思いますし、この先もしばらくは人の力っていうところに頼らざるを得ないっていうのは、これはもう間違いないことだとは思いますが、やはり今いるべき人を他業種へ逃さない、新しく若手の方にも入ってきていただくっていうところの一番の部分っていうのはやはり賃金の部分かなというふうに思いますので、今回、影響力が少ないということをおっしゃるんですけども、恐らく今後、この先どんどん他業種が上がってくる中で、この1年の結果っていうのが後にこの中でも響いてくるんじゃないかなと、うかうかしてはられないなというふうには思っておりますので、ぜひ未来にかけるような回答がいただけますようよろしくお願いしたいと思います。以上です。

【部会長】 労側から意見をいただきましたが、続きまして、使側からの意見はありますでしょうか。

【森脇委員】 非常に理にかなった御発言をいただいております、良く理解させていただ

きました。

まず、この業種において肝腎要の世界的なグローバルな見方っていうのが当然必要であって、世界の過半数以上を占めてる中国経済がどういうふうになるかっていうのが一番問題であって、まず、不動産不況、見通しが極端に言えば真っ暗な見通しであるっていうところであるとどういうふうになっているかっていうのが、要は世界の生産量の過半数以上を占めてる中国経済そのものの見通しが不透明であるというのがまず1点目の懸念材料です。

それから2点目が、おっしゃってる島根県の鉄鋼の非常に品質の良さとか、それから歴史とかいろんな言われとか、いろんなものはすごく勉強させていただきまして、今の御発言と皆さんの御発言でよく勉強させていただいたんですが、残念ながらこの業界は生産量の争いであるというふうに考えておりまして、質も当然重要な要素とは思ってますが、量の争いであると。そのために、ここ数年はM&Aで要は統廃合というのが当然起きている状況であるということであって、非常に業界にとっては厳しい状況であるというふうに、経営の見方からすると非常に厳しい見通しであるというふうに考えてます。

それから、最後なんですけど、少子高齢化っていうのはどの業界も人手不足であって、今日ちょっと私、昼間っていうか、午前からずっと同じ鉄鋼業界の中小企業の方と話ししてましたが、高校生に就職の案内を鉄鋼業界で出すと、親が怒ってくるそうなんです。うちの息子、娘さんでもしょうけど、うちの子供にこういう業界に就職させるためにこういう高校に入れたんではないというふうに、親から苦情が高校の先生に来るらしいんです。いや、本当、何かそういう話をリアルに聞きまして、じゃあ、どうするんだっていう話になったときに、要はある程度、戦術になるんですけど多角化、要はほかに持ってない、例えば海外の企業とかにも持ってない技術とかを駆使して、競争力のある生産品を作っていくしか、中々価格交渉とか、それから魅力ある企業価値というものに結びついていかないんじゃないかっていうふうな結論的な話に陥ったところでもあります。要は中々業界そのものについても非常に厳しい見方がされているということがあって、これは非常に残念なことだと私は思っていますけど、こういう今の若い世代にどうかっていうところもあるんで、若い世代に対して魅力ある、やっぱり業種になっていかないとい

けないっていうふうに思った次第であります。少子高齢化っていうのはどの業種にも共通している話であるんでいたずらにこの業界だけが厳しいってわけではないというふうに思っています。

ちなみに、何か島根県の、灰聞なんですけど、2040年には人口50万人だと。今60万人台からもう50万人になると。そのうち50万人切っていく形の中で我々の方はどうやって生きていくかということになると思っておりまして、その辺もしっかり議論をしたいというふうに思っています。

金額を何か提示されたんですが、これ、議事録に残るんですけど。議事録。

【室長】 今の状態は議事録に残る形ですが、いずれにしましても議事録で残らなくても議事要旨のところではこれまでも幾らだ、第1回目の要求は幾らですということを出しておりますので結果的に同じかなと。

【森脇委員】 そうですか、すみません。今、55円の提示っていうのをいただいたんですけど、我々は県最賃の時に消費者物価指数っていうのは重点的にお話しいただいたんですが、その同じ6月に調査された賃金改定状況調査でBランク、2.4%アップ。第4表の③で2.4%だったんで、この2.4%を987円に乗じますと、23円という提示をさせていただきたいというふうに思っています。以上です。

【部会長】 じゃあ、使側からその他に意見はありますか。

【若松委員】 鉄の流通しております鉄工会の若松といいます。よろしくお願いします。

鉄の話が出ましたので、今、まずメーカーの状況ですけど、一昨年来、ロシアのウクライナ侵攻も併せた中でいろんな状況がありまして、鉄が高騰しております。今、高値安定というところで高い水準で横ばいという状況だと思えます。

今、森脇委員からありました中国、やっぱりこれが非常に大きな影響ございます。というのも鉄の60%、全世界の60%を中国が造っておりますの

で影響は大でございます。ので、8月に中国がやはり状況がすごく悪くて、安い鉄を輸出で日本に来ました。ので、一時、鉄もこの8月に値崩れをしかけましたけど、日本のメーカー、日本製鉄、JFEという高炉メーカーさんがありますけど、ここはもう下げないと。というのも、やっぱりこの先に2050年カーボンニュートラルゼロを目指して、非常に今、投資をしております。5月に、皆さん御存じのように九州の八幡に日本製鉄、今、九州製鉄所という名前であるんですけど、そこと姫路、広畑っていうのがありますね。広畑製鉄所、これは高炉の代表的な日本のシンボルみたいなもんですけど、ここをもう電気炉に替えますという発表をされました。日本製鉄の橋本社長が、この物すごくやり手の方で、御存じのようにトヨタとの訴訟合戦、電磁鋼板でやっておられる方ですけど、もうカーボンニュートラルに向けて電気炉にしますと。電気炉にしてもカーボンニュートラルはゼロにはなりません。高炉の4分の1です。というところで、よりカーボンニュートラルに近づけるために投資をして電気炉をつくると。その電気はどっから引っ張るのっていう議論は別にしまして非常に積極的な投資に向かっておられます。

ですから、先ほども森脇委員からも言われたように島根県は量を目指していると思いますが、メーカーとしてはもう完全に量から質に転換しています。今、一般的に流通している我々が持っているような内陸に3,000トンぐらいの鉄を保管しておりますけど、そういったものは高炉産はもう造らない。どっかいえば電気版の製品ですね。というふうに変わってきております。

それと、直近の島根県の状況ですが鉄鋼業界めちゃくちゃ悪いです。特に東の方、東出雲、メーカーさんはあえて言いませんけど、安来。安来地区は労組の方もいらっしゃいますけど、40%ダウン。8月には盆休を入れまして20日間ぐらいのお休みをされました。先週も4連休ですか、ということでちょっと調整に入っておられると。うちの会員さんも非常にあの地区多くて、東出雲も多いんですけど、非常に苦勞されてます。今、材料高、エネルギー高ということでこれからは大変だと思います。

というか、うちも相当落ちております。全般的に鉄工会自体は落ちてないんですけど、それは出雲の災害復旧の材料ですね、神戸川水系、これで何と

か売上げだけはもってますけど、非常に製造業、特に金属加工物といいますか、そういったところは非常に悪いですね。

それと、鉄の「VIVANT」の話がありまして、ちょうど我々も来月、10月の26、27でメーカー商社を毎年集めて、くにびき交流会というのをやっております。300人ぐらい県外から来られるんですけど、このタイミングで、これ「VIVANT」を知ったからではないんですけど、たたらのあるを見学してもらおうと。我々の直近の、何といいますか、コンセプトの中にも入ってるんです。たたら鉄の歴史を伝えるということでちょうど今マッチングしまして、この26日ですかね、たたらを見にツアーを組みました。取りあえずお昼のことがあるから限定30名で、もう三、四日で埋まりまして、ちょうどいいタイミングだったかなと。先般、「VIVANT」の話も、松江市長さん訪ねますとあそこに何かいろんなものを置いてありまして、PRもされてましたけど、非常に鉄の歴史というのはやっぱり奥出雲に金屋子神社、御存じでしょうかね、あれは全国の鉄の神様の総本山です。景山委員が良くおっしゃってる、近所ですか。金屋子神社あるんですよ。これ、全国にありまして松江にもあるんですよ。だけど、あそこが総本山です。鉄の神様です。そういうことで鉄と島根県というのはすごくゆかりがありまして、それこそたたら製鉄の文化も我々伝えていこうということもコンセプトに上げておるところです。

ちょっと脱線しましたが、やっぱり中々厳しいですね。今、相当厳しいですね。今、うちも何とか売上げもってるのは、そういった今の出雲の災害復旧の材料で会員さん非常に悪いです。特に東が悪いですね。ということで、中々簡単にベースを上げていくというのはちょっと難しいかなと思ってますし、リクルートにしても中々来ないですね。うちも事務局でも募集しましたけど、高卒は駄目です。

と言うふうに、非常に厳しい状況でございます。改定価格についても全く森脇委員が言われたとおりだと思いますので、大変非常に厳しい状況が続くと思います。以上でございます。

【部会長】 ありがとうございます。

よろしく申し上げます。

【三好委員】 ヒラタ工業の三好と申します。今年からですかね、この審議会参加させていただくようになりました。鑄造業ですね、出雲で鑄物を造っております。と同時に島根県の銑鉄鑄物工業組合の一応理事長といった形も務めさせていただいておるといふことでございます。

私からは、鑄物のことしか分からないので、鑄造業の現状っていうのを話させていただければなというふうに思います。

先ほどから「V I V A N T」めっちゃ出てきてて、私もちょっと今回この審議会の話で結構緊張して来たんですけども、「V I V A N T」がこんなに出てくると思わなくて、勉強しとけばよかったなど。私、録画だけしてて、一つも見てないので、ちょっともうちょっと勉強してくればよかったとちょっと反省しているところでございます。

本当に、先ほど景山事務局長さんがおっしゃられたように、私、どちらかというと、ストレートに何の駆け引きもなくお話しさせていただければなというふうに思います。

島根県の鑄物の状況ですけれども、皆さんも御存じのように全国的にも島根県、鑄造すごく盛んでございます。生産量だと今、全国第2位というところで、島根県からも非常に期待されている業界でございます。先ほどから島大に材料のが何だ、新しい、何だ、あれが設立されたりとかいった形で、非常に力を入れていただいている業種になるのかなというふうに思います。

状況としましては、コロナ前から少しずつあんまり良くなかったんですよ。もともとアメリカと中国との貿易摩擦がコロナ前にあって、その辺からちょっとずつおかしくなってきた、コロナになって、中国発端のコロナになって、中国が先におかしくなってきた、日本も少しずつおかしくなってきた、さあ、ここらっていうときにもろもろの皆さん御存じのように、エネルギーであったり、原材料であったり、上がってきて、今、現状だと為替が140円ですか、百四十数円になりまして、我々製造業っていうのは最終的な製品を売っているわけではないので、そうすると、円安の効果ちゅうのはほぼないに等しいですよ。ただ、物買ってくるのはどちらかというと国内であ

ったり、海外製品というのが多いので、非常に影響が大きい。電気代が上がっているっていうのも基本的には購入のもの、購入物、海外からの購入しているものっていうのが非常に影響を受けているというところで、この円安効果っていうのは基本的にはない業種なのかなっていうふうに考えております。

私どもも、組合員さん皆さん、価格改定、去年、一昨年ぐらいからですか、何回かお客様に対してお願いしているところではございますけれども、僕らの業界っていうのは上がりそうだから上げてねっていうわけじゃなくて、上がったものをお願いするわけですね。もう既に上がっている中でお客さんをお願いして、3か月、4か月ぐらいかけてお願いして、実際発注が来るのが半年後であったり、その後、実際お金が入ってくるのがもう3か月後であったりということで、常にここ数年言葉は乱暴ですけど、かぶり続けているといった状況が続いているのが私たちの業種なのではないかなっていうふうに思います。

という中で、やっと今、価格改定を年間ある程度認めていただいて、それで、先ほどおっしゃられたように購入材料に関しても高値とはいえども一応安定したというところで、さあ、これからと、今年、さあ、今年頑張るでっていう話を従業員さんと話ししていたところ、ここに来て受注が減るといった状況というところでちょっとつまづいている状況が今年の1月以降からやっぱり少しずつ下がってきてるという状況でございます。

業種としましても、本当もろもろ全ての業種が落ちているんじゃないかなというふうに思います。弊社、自動車以外ほどの業種もやっているんですけども、やっぱり、自動車さんは良かったり悪かったりっていう感じが続いているんじゃないかなっていうふうに考えます。建機に関しましては、やっぱり中国の影響が多くて昨年春先ぐらいからずっとよくない状況が続いている。工作機に関しましても昨年の1月からずっと右肩下がり受注量が減ってきているというところ。そして、一般産業機械に関しましても、半導体であったり、物流であったり、そして工作機であったりっていう工場が新しい工場を造ったり、あと、機械を造っていくっていうような受注が減っていると。昔のトイレットペーパーがなくなったじゃないですか。あの状況にちょっと似ているんじゃないかなっていうふうに皆さんが半導体がないないって言う

て、いろんなところでちょっとがあつと買っちゃったっていうところで、皆さんが在庫を持ってしまった。その在庫が世界的にいろんな場所でたまってしまったっていうところで、景気の先行きも良くない中で、最終製品が出来上がらないので、そこのスピードが鈍化してしまったことも含めて、結局あっちこちとで在庫を今抱えている状況っていうのをよく聞くようになってまいりました。結局、一番、あっちこちで在庫持っているのでは要は新規の受注が入ってこないっていう状況が今の状況に近いのかなっていうふうに思います。

それが、じゃあ、いつ解消されんねんっていう話が出ているんですけど、もうあっちこちで在庫持ってるのでいつ解消するか分からないというような話で、最初は元々は今年の秋口ぐらいから復活するっていう話だったんですけども、今、年内ちょっと怪しい、今年度もちょっと、3月も微妙だな。ある会社さんでは来年はちょっと難しいかなとかっていう形も出てきている状況でございます。先行きが見えないというところで非常に難しい操業を現在進めているというところでございます。

私の方からひとまずマイナスのことばかり言っておけばいいかなと思っ
ていまして、取りあえずそういう、いや、いいこともちょろっとあるんです
けれども。

業種によってはあるんですよ。船舶がちょっと忙しかったりとか、後、機
種によってはよく出ている機種っていうのはあるんですけども、全体的に
悪いほうが多いというところで、マイナスの方が多い。弊社としても昨年度
と比べると、現状8%か10%ぐらいダウンっていうようなイメージを持っ
ております。

今週、全国鑄造協会の集まりがあるんですけど、その中のアンケートも今
見せてもらってますけど、やっぱり押しなべて全国的には10%前後落ちて
いるといった形で業休している会社さんももちろんあります。というふうに、
非常にしんどい形かなっていうふうに思います。

というのが今の鑄造業界の現状でございます。以上です。

【部会長】 ありがとうございました。

労使それぞれから基本的な意見をいただきました。

労側の意見を聞かれて使側から、また使側の意見を聞かれて労側から、そのほか何かありますでしょうか。よろしいですか。

【景山委員】 1点だけちょっと質問がありまして、もし分かれば教えていただきたいですけど、自動車の話、先ほど三好委員からもございましたが、自動車、物が動いているっていう感覚はないものの、今、新車を契約すると少なくとも、短くても半年、1年、1年半はさらに納期についてディーラーからお話があるわけですけれども、自動車業界や或いは自動車から要求されている生産工程で見ると在庫を持たずにやってくださいというのが昔からの常な中で、半導体だけではない不足品もあるわけですけど、動いてないというように感じているんですが、その島根県内の鉄需要に関する落ち込みはどのぐらい、鉄そのもの、鋳物、両方あるわけですけど、どのぐらい今あるのかなという率直な疑問があるんですけど、昔よりちょっと上がってきたっていう感覚はあるんですけどいかがなものでしょうか。

【若松委員】 今日、たまたま自動車の関連の、小売の関連で打合せ的な話をちょっとお昼にしたんですけど、やっぱり全般的に10%ぐらいダウンしていると。何が原因かっていうのは物価が上がっているということの中でやっぱり消費者マインドが落ちているんじゃないかということをおっしゃっていました。特に若い人の購買意欲が非常にないということをお昼にちょっとお話ししたところです。

それで、今のロシアの問題も話が出まして、今、自主的に中古車、ロシアに出してないんですね。ちょっと前は浜田港辺りでも相当出していましたけど、今、半導体を軍事転用されるっていうことでちょっと輸出がストップということも、これも大きな原因でして中古車市場もかなり落ちているというふうなことも今日話し合っていましたね。

そう言ったことで自動車関連もちょっと厳しいですね。

【景山委員】 ありがとうございます。

【部会長】 その他はありますでしょうか。よろしいですか。

【森脇委員】 今日で終わるかどうかわかりませんが、できるだけもうちょっと詰めた
いと思っております、これから時間無制限ですんで公労、公使でやりたいと
いうふうに提案したいんですがいかがでしょうか。

【部会長】 景山委員、どうぞ。

【景山委員】 よろしくお願ひします。

【部会長】 それでは、この後、労使、別室に分かれてそれぞれ個別にお話しさせていた
だきたいというふうにしたいと思います。

これからは具体的な金額審議に入ることになります。公開することにより、
個人情報保護に支障を及ぼすおそれや、個人若しくは団体の権利利益が不
当に侵害されるおそれ、率直な意見交換若しくは意思決定の中立性が不当に
損なわれるおそれがありますので、島根地方最低賃金審議会最低賃金専門部
会運営規程第5条第1項に基づき、これからは非公開といたします。また、
第6条第2項により議事録も非公開とし、同条第3項により議事要旨を公開
します。

したがって、当部会は一旦休会という形にします。

(公労・公使会議へ移行)

(これより金額審議により非公開)

(以下、議事要旨のみ公開)